

平成 28 年度公益財団法人網走監獄保存財団事業計画

基本方針

当財団は、公益財団法人の認定を受けてから満 4 年が経過いたしました。

これまで、公益関連三法と財務三原則を遵守しながら、営利企業や行政では満たせない社会のニーズに対応した自由で自発的な民間非営利活動を促進してまいりました。

もちろん、公益法人としてのメリットとなる社会的信用の高揚と税制上の優遇措置を受けるためには、より厳格な公益性が求められるところでもあります。

したがって、当財団唯一の公益目的事業であります博物館網走監獄の運営の適正化を図るためには、認定申請時に提出した事業計画を着実に実践していく事となります。

しかしながら、我が国は人口減少社会に突入しており、正常な運営を図るためには、博物館を取り巻く環境がますます厳しさを増して来ています。

そういう中であって、本年 2 月 1 日に当財団顧問(北大名誉教授)の角幸博先生を館長にお迎えして、2 月 9 日に正式に国の指定を受けた 2 件 8 棟の重要文化財を活かし、どう保存し、どう活用し価値観を高めていくかが、歴史博物館として生き残っていく道であり、そのことが、国の内外から訪れていただいた、すべての人々に感動を与えることができる充実した博物館を目指すことであると考えております。

このため、当財団の運営の安定を図るため入館者の増と収益事業の強化とあわせ、経費の節減に引き続き取り組んでまいります。

以上、これらの基本方針にもとづき次の事業を進めてまいります。

- 1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る
- 2 充実した博物館の運営を図る
- 3 展示建造物の維持、館内の整備と固定資産の取得
- 4 経営の安定を図るため入館者の安定と収益事業の強化

1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日、当財団が所有し博物館網走監獄において保存公開をしている旧網走監獄、旧網走刑務所建造物 2 件 8 棟が重要文化財の正式な指定を受けました。このことにより当館は重文 2 件 8 棟、登録有形文化財 6 棟を有する歴史博物館となりました。貴重な国民共有の歴史的資産として認められたことを重く受け止め、今後の文化財保存と活用に真摯に取り組んでまいります。

- (1) 重文指定記念行事として、4 月 9 日に北海道新聞社と共催し「重要文化財指定記念フォーラム・博物館網走監獄の役割と今後の展望」を開催します。当館がこれらの重要文化財を活用し網走のまちづくりにどのような役割を担うべきか、また木造建造物の保存について今後の方向性を提案していただく記念フォーラムとし、今回の重文指定に携わった文化庁担当官、著名な建築史研究者 2 名を招聘します。フォーラムに併せて重文指定を記念する祝賀会をレセプション形式で開催します。(予算:3,365 千円)
- (2) 重要文化財の保存活用計画の作成に着手します。今後の文化財修復や維持対策・計画、そして活用策など時間をかけて取りまとめ、国や道、網走市と情報を共有するものです。初年度は他地域の文化財保存活用計画などについて調査事業を行います。
- (3) 新たに重要文化財となった建造物に重文指定を表示する新たな解説版 4 基を設置します。(予算:固定資産・環境整備 5,700 千円)
- (4) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、本年は消防計画の見直し、防災設備の拡充計画の検討を行います。

2 充実した博物館の運営を図る

日本の博物館は約 5800 館にもなり、利用者総数は 2 億 8 千万人にも及ぶといわれています。各博物館における様々な取り組みの成果により、現在では博物館に対する認識も変わってきました。もちろん利用者総数の中には、外国人の見学も含まれ、一昔前とは変わり、日本的な文化、体験をするなら博物館を訪れるという新たな流れが生まれつつあります。

すなわち国際化の波、ユニバーサルミュージアムに対応することが必要不可欠な状態です。

ユニバーサルミュージアムとして、ソフト、ハードに対応し、来館者のニーズを的確に掴む博物館が外国人利用者に支持されております。

博物館を訪れる人々は、資料の持つ非日常性、その地域にしかない特別なものを見たい体感したいという思いで来館されると推察されます。

新年度の博物館網走監獄は、重要文化財 8 棟と登録有形文化財 6 棟を保存公開する野外歴史博物館として、資料の持つ希少性をアピールし、この重要文化財は国民共通の財産であり、未来に向けて人類共通の歴史資産となるという基本認識で博物館活動を進めてまいります。

一方で、博物館を身近な日常に取り入れてもらうためには、生涯学習の場としての機能を充実させる方策も同時に進める必要があります。その対応として、今年度は庁舎デジタルライブラリーの活用を市民に広めるよう集治監沿革記の解説講座などを行い、学習の機会と研究成果を来館者に提供するレファレンスサービスの更なる充実を図り、誰もが博物館資料に近づける、博物館と多くの人々が繋がるよう検討してまいります。

更に増加する海外からの来館者にも展示を通じて解りやすく文化を伝える手法が求められるようになっておりますので、日本の宝ともいえる行刑建造物初の重要文化財の魅力が多言語化により更に進めてまいります。

新年度においても博物館を取り巻く環境が好転の兆しがない中、公益財団法人が運営する博物館として、地域の「知」を集積し「知」を生み出し「知」を継承していく、博物館の調査、研究、保存の基本活動を通じて多様化する文化活動を牽引できる新しい博物館運営をめざします。

(1) 博物館の社会教育事業

新年度の物作り講座は、デジタル化情報化社会に敢えて、過去から伝わる文化伝承を体験する機会を提供する体験講座を企画しました。春の体験講座「館内の花を貼ってオリジナルバスケット作り」、夏休み体験講座「凝灰岩(軟石)でアート」「大工さんに挑戦 鳥の巣箱とプランター作り」、秋の体験講座「凧を作って高く上げよう」、冬の

体験講座「注連縄飾りに挑戦」、正月体験講座「福を呼ぶ干支の水引作り」、春の体験講座「和紙で折雛作り」を行い、野外博物館の特性と刑務所作業を迫体験するワークショップ8講座を通じて子供から大人まで楽しめるメニューで講座を進めます。

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から11月まで7回に渡り開催し、植え付けから収穫体験、調理実習、試食と一連の作業を行い、地産地消について学び二見湖畔神社収穫祭へと繋げてまいります。

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を会場に、薄れかけている日本の古き伝統行事を、博物館に訪れる全ての人を対象に、体感してもらうものであり、春のひな祭り、五月の節句、夏の七夕、秋の十五夜、正月七草、鏡開き、正月準備、節分豆まきと8回の伝統行事を通じて、季節の移ろいと日本人の知恵を感じさせるイベントとし誰でも参加できる形式で行います。

この年中行事は近年、外国人見学者にとっても好評ですので、外国人が想像する日本らしさを表現するよう企画します。ゴールデンウィーク、秋の3連休に実施するイベントは、家族で楽しめるように子供の日にちなんだ餅つきを行い、かしわ餅を無料でプレゼント、伝統遊具作り、豆わらじ作りなど、二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所の三眺神輿を借り、神輿担ぎを体験や獅子舞などお祭りムードを演出し懐かしくて新鮮なイベントを通じて、網走監獄での思い出が鮮明に残るような、新しい発見や喚起を与え、「博物館で初めての体験」「博物館は知の宝庫」をコンセプトに教育普及事業を進めてまいります。

(2)企画展の開催

歴史館1階のスペースにて、4月～9月まで重要文化財指定記念企画展「和洋折衷の極み 百年の建築美」展を開催します。8棟の重要文化財の特徴的な部分をクローズアップして写真展示を行い、「和と洋」の建築的特徴、小屋組、壁、屋根、デザイン性、装飾性について、重要文化財として評価された点を解説し、常設展示では語り尽くせない魅力と価値を紹介する企画展です。

10月～3月までは、「北海道の重要文化財建造物巡り」展を行います。北海道内の重要文化財建造物26件の建造物写真をパネルにし、建築年や特徴を紹介し、北海道内の歴史的建造物に対する人々の目を喚起させ、歴史的建造物の魅力を多数の人に知っていただく展覧会となるよう企画します。

新年度2回の企画展は、重要文化財に特化した内容とし、博物館の保有する資料は宝物をコンセプトに普及啓発を進め、館長による特別講演会も実施いたします。

(3)博物館網走監獄友の会

友の会は、監獄の歴史に興味のある方、博物館に興味のある方並びに博物館を支えるサポーターとして8年前から会員を募り、現在42名の個人会員と11の団体会員が入会されています。新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場所として、会員それぞれの得意分野を活用し、展示解説作業、イベントスタッフの2分野に分かれて自発的に行動、博物館活動を支援することを目的としています。

また、例年行っている、中央道路開削慰霊碑の清掃活動、二見桜並木の植樹、博物館紀行バスツアー、展示解説会、勉強会なども合わせて企画し、会員自らの生涯学習の裾野を広げる意味においても楽しく活力ある友の会活動を進めてまいります。

(4)展示見直し

重要文化財指定を受けて、教誨堂、舎房、二見ヶ岡刑務支所の内部展示を見直し、建造物に纏わる歴史的背景を明確化し、深みのある展示内容とするため、平成28年度は、まず教誨堂の内部展示更新のための基本設計に入りたいと考えます。

現在までの収集活動で入手できた、明治45年完成当時の棟札や宗教教誨の行われた時代の写真や辞令、監獄教誨の歴史の中で留岡幸助、原胤昭といった主要な教誨師の紹介、各集治監の教誨堂建築との比較、多言語化など資料の充実を図り、29年度に実施を目途に進め、順次、二見ヶ岡刑務支所、舎房と展示更新を図りたいと考えます。

3 展示建造物の維持、館内の整備と固定資産の取得

博物館網走監獄は開館より 33 年目となります。施設各所の老朽化対策、危険箇所の見直しを進めていますが、来館者の安全確保策は重要な課題であり、よりきめ細やかな対応を進めてまいります。

また海外観光客の増加、高齢者・障がい者など多様化する入館者に対応する「人にやさしい博物館」として施設のユニバーサル対応を進めます。

収益事業部門の「監獄食堂」は開館間もない時期に低予算で建設を行っていたこともあり、施設の老朽化に加え耐震面に不安があることから今秋の営業終了後に改築工事を実施します。

- (1) 危険箇所の見直し 冬期間の園路凍結による転倒事故防止対策として園路の傾斜部分にロードヒーティング採用、手すりの増設等を検討します。
- (2) 施設老朽対策 開館当初に設置した建築物、構築物、設備は少なくなっていますが入館者側の視点に立ち、利用しやすい設備への改修を進めます。博物館設置の意義を入館前に理解していただくための屋外サイン設置や、広い博物館敷地内を見学しやすくするために館内数箇所全体図を組み込んだ屋外サイン設置を行うなどサイン計画の改修を進めます。改修するサインは多言語対応を行います。館内 10 基程度の設置を予定します。(予算:固定資産・環境整備 5,000 千円)
- (3) 外国人利用者増加への対応 監獄歴史館の映像展示「赫い囚徒の森・体験劇場」の外国語音声に新たに広東語版を追加、効率よく上映が行えるよう外国語音声選択スイッチを付設します。(予算:固定資産・展示備品 3,780 千円)
- (4) 高齢者、障がい者利用対策 監獄歴史館映像展示コーナーに着席用ベンチを設置するほか、好評を得ている宿根草花壇整備に合わせ屋外休憩用ベンチ、テーブル等の什器配置増設を検討します。
- (5) 収益事業部門
「監獄食堂」棟改築 27 年度に作成した基本設計に基づいて実施設計を行い 9 月末の食堂営業終了後、現在地にて改築をするものです。周辺景観に適應するデザインの木造平屋建築、面積は凡そ 60%程度となりますが、厨房設備・什器配置の見直しなどにより、現在以上の 80 席を確保します。券売機、飲料の自販機導入など効率よく管理を行うことを計画します。予算は建設費用のほか設計管理費用、什器備品購入、外構整備を含みます。(予算:固定資産・建物 69,000 千円)

4 経営の安定を図るため入館者の安定と収益事業の強化

当財団は、設立の経緯から自主自立の経営を進めてまいりました。今後もその精神を引き継いでいかなければならないと考えております。

したがって、公益目的事業会計並びに法人会計の健全な運営をはかるためには入館者数の安定と収益事業会計の強化は、重要な課題であります。

当面の入館者数の目標を25万人とし、入場料収入を225百万円と定め安定した経営を目指します。

また、収益事業会計では今年度「監獄食堂」の改築を行い、市民にも来ていただけるメニューをそろえ、通年営業を目指し売り上げの増収をはかります。

庁舎に併設している喫茶コーナーとミュージアムショップについては、入館者のニーズを見極めながら楽しいショップを目指します。

具体的には、次の重点事項を中心に推進してまいります。

- (1) 北海道新幹線の影響は、道東地区に厳しい状況が予想されます。したがって、訪日観光客の増を考慮し今年度の有料入館者数は228千人(前年度見込比3%増)とし、入館料収入を206百万円(前年度見込比3.2%増)とします。
- (2) 売店、食堂、テナント料の収益事業会計の売り上げ目標を総額53,977千円(前年度見込比3%増)とします。
- (3) 年々増加傾向にある国内の個人、グループ旅行者への対策として、ホームページの充実、SNS(フェイスブック等)の活用をはかると共に、じゃらん、るるぶ、まっぷる等の全国旅行誌への掲載、新聞広告等の他、マスコミ等へ積極的に露出をはかるなど話題作りにつとめます。
- (4) 減少傾向にある国内の団体旅行については、バス代の高騰、道東空港への座席提供数の低迷から減少傾向にあります。東京便の大型化と関西便の通年化にむけた動きが必要であります。
また、国内エージェント対策として、札幌、東京、名古屋、大阪、九州の主要エージェントへの誘客促進を進めます。
- (5) 道内客の誘致に力を入れてまいります。そのため、昨年引き続きゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィーク等に、道内の子供たちを中心とした、重要文化財スタンプラリー、遊びながら歴史を学べる「プリズン博士と監獄レポートの謎」と題した親子で楽しめる「宝探しゲーム」を取り入れます。
- (6) 2015年の訪日外国人客が政府観光局の推計で前年比47.1%増の1973万7400人と過去最多になったと発表されました。これは、円安に加えビザの要件緩和、免税品の対象拡大などが押し上げたとみられます。

一方、道によると15年度は200万人を超える勢いだとされております。これらに対応するため次の事項を進めてまいります。

- ① 当館への入館者が多い、台湾、香港へのプロモーションを引き続き行うと共に中国へのアプローチも検討いたします。
- ② 重要文化財を活用したパンフレット、案内リーフレットの充実をはかります。
- ③ 重要文化財の多言語案内板を新設するほか、館内位置案内板も新設します。
- ④ ホームページのインバンド向けの充実をはかります。
- ⑤ 台湾から道東空港への定期便の開設を要望してまいります。
- ⑥ 前年度好評だった、雪の滑り台、チュービングを引き続き設置します。